

平成 21 年 4 月 15 日発行

しのはらの風 21-1号

小淵沢町篠原区情報紙
発行人：区長 松井 皎
編集：藤代 富美男

<定期総会が開かれました>

4月5日(日)に公民館で21年度篠原区定期総会が開かれました。区民総数142世帯のうち、73世帯の出席と42枚の委任状の提出で総会は成立しました。

会場は公民館にある椅子を縫って出しても足りなくて、和室用の長机を出してその上に座布団を敷いてベンチにして座っていただくという状態でした。本当に多くの方々のご出席をいただきありがとうございました。区の運営に大いに関心を持っていただいている事の表れだと思います。役員一同大いに気を引き締めてこれからの1年間頑張ります。

議長にはこの人なくして総会は無いとも言われる2組の今井さんが指名され、書記には5組の渡辺さん、中嶋さんが選ばれました。ありがとうございました。

議事は順調に進み20年度の活動・会計報告と21年度の事業計画・予算が承認され、その他の議案も承認されました。

又、例年話題にはなっていました敬老会の招待者対象年齢について執行部より問題提起され、総会出席者の大多数の賛同を得て今年度より70歳以上(9月15日現在)を対象とすることが決まりました。今年65歳になったのにガッカリという方もいらっしゃるれば、65歳なんて恥ずかしくて招待なんてとてもとてもという方もいらっしゃるでしょう。それぞれに感慨をお持ちかと思いますが70歳以上という事でよろしくお祈いします。もてなされるよりもてなす方が楽しいという方も案外多いようですよ。

今年度の特徴は暫く活動を休止していた婦人部が再開した事です。区の運営に女性の意見が無くてはやはり配慮に欠けた事にもなりかねません。女性ならではの視点で広く区の全体を見渡して積極的な行動をお願いします。

新しい役員さん達もそれぞれ承認され、各組の福祉部員、環境部員、婦人部連絡員も紹介されました。皆さん張り切っています。

総会終了後には和室でささやかな中にも賑やかに楽しく懇親会が行われました。最近3年間は行われなかったのですが今回から復活です。新たに20年度に加入された方々も加わって話に花が咲きました。桜よりチョット早かったですね。

皆さん、今年1年間積極的に参加して皆で過ごしやすい安全な地域にしましょう。

【自分は区のためになにができるか】

を考えようではありませんか。よろしくお願いします。

＜火災が多くなっています＞

最近火災が増えています。空気が乾燥している上に、枯草等が多く、簡単に火がつきやすくなっています。全国的にも、県内でも、北杜市でも、小淵沢でも、そして最も身近な篠原区内でも空き地の火災がありました。一步間違えれば住宅に飛び火して大変な被害が出る場所でした。

山の中で自然に発生する火災とは違い、人々が住んでいる所で発生する火災はほとんどが不注意か過失が原因だそうです。特にタバコの不始末による火災はいつも出火原因のトップに上げられています。この時期に歩きながら道端にタバコを捨てるのはまるで放火をしているようなものです。

私達に出来る防火活動はまず燃えやすいものを放置しておかない事、心無い人が気楽に何でも（空き缶とかタバコとか）投げ捨てられないようにきれいにしておく事でしょうか。雑多なものが捨てられている所には心理として投げ捨てが多いようです。

皆さん、くれぐれも気をつけましょう。

＜防犯講習会＞

4月1日（水）に公民館で防犯講習会が行われました。長寿者クラブのメンバーと一般の参加者を入れて20名ほどが参加しました。講師は小淵沢駐在所の平出警部補です。テーマは「振り込め詐欺を防ぐには」と題して行われました。

まず最初にビデオで振り込め詐欺の手口が色々紹介されました。巧妙な話と緊迫した臨場感で、振り込め詐欺があると分っていてもついつい騙されてしまったというケースが幾つも紹介されました。詐欺師は見事なほどにうまいです。

詐欺にかかりやすいのは「自分は絶対大丈夫だ」と思っている人だそうです。経験上で分っている事に話がつながると、疑いながらもついつい同意してしまいがちになるそうです。

そして「自分は詐欺の電話がかかってきたらきっと引っかかってしまう」と心配している人は勿論引っかかります。つまりそれほど巧妙なのです。

対策は家族の間で【合言葉】を決めておく事。いったん電話を切って冷静になる時間を作る事でしょうか。皆さんくれぐれも注意しましょう。

＜春に新しい命が生まれました＞

去る2月17日、4組の山崎修平さんに女の子が生まれました。雪乃ちゃんといいます。お母さんは偉大ですね。頑張りました。お兄ちゃんの瑛太ちゃん（まもな

く3歳)も嬉しそう。春は木々も芽吹き林や草叢まで命の誕生を祝っているようです。なんだかわくわくしてきますね。みんなで祝福してあたたかく見守っていきましょう。皆さんよろしく申し上げます。

＜ダリアの球根＞

「花パークフィオーレ小淵沢」では本年度より運営方法が変わり、花を主とした公園から生産性農園を中心とした無料公園として運営されるようになったそうです。

それに伴いダリアの球根を小淵沢町内の各区に無償配布する事になり、先日有志数名で受け取りに行ってきました。仮伏せされている球根を掘り起こして軽トラックにほぼ一杯積み込み、公民館の庭で古いゴミ袋に赤白の球根を詰めて各組長さんにお願ひしました。既に皆さんのお手許に届いて植えた方もあると思いますが秋には赤白の花を楽しんでください。

白い花(晴天の星)は10センチほどの大輪、赤い花(女神)は小ぶりですが鮮やかな色合いが特徴だそうです。楽しみですね。

「花パークフィオーレ小淵沢」のご英断とご好意に感謝ですね。

＜こんな事が…＞

毎朝犬達を連れて散歩をしていると色々なものに出会います。道端にきれいな花が咲いているのを見つけて思わず嬉しくなったり、新しい建築現場があったりと。

昨年の始め頃から気になっていることがあります。散歩の時に必ずと言っていいほどほぼ決まった場所に缶チューハイの空き缶が投げ捨てられています。氷結という名前です。大体毎日です。ヤマザキデイリーのシールが張ってあります。どこの店で買ってくるのかわかりませんが飲みながら車の運転をしてその辺に来ると飲みきって空き缶を投げ捨てるのでしょうか。500mlの大きな缶です。結構酒に強い人なのでしょう。

家に帰ってから飲めばいいのに飲めない理由は何だろうとか、どっちから来てどっちに行くんだろうとか、どこに住んでいるんだろうとか、篠原区の人かな?とか

最近ではストロングと書いた缶があります。アルコール分8%だそうです。これは効きますね。この様な事はだんだんエスカレートしていくものだそうです。先日の新聞に帰宅時にビールを5本も飲んで事故を起こした教諭の話が出ていました。日常化していたそうです。これをご覧になっている人の中にまさかないだろうとは思いますが、もしもいましたらもうやめましょう。そのうち大変な事になりますよ。

＜伝言板＞(どなたかいい名前をつけてください)

今年度から区に入られた 2 組の岩城さんから【譲ります】の情報です。

品物；ラタンアームソファベッド（袖のところがラタン（籐）で出来たものです）

サイズ；幅 201 cm、奥行 92（ベッド時 120）、高さ 74（ベッド時 37）、座部高

25、重量約 40kg（座る位置が低いソファベッドです）

材質；張地綿 100%、中身スチール 等々

購入時期；2008 年 8 月

条件；ご自分で運んでいただける方

ご希望の方は岩城さんがまだ地域になれていないので、とりあえず藤代にご連絡ください。 Tel36-3483 mail: shinohara.mytown2009@gmail.com

<開拓の思い出>

今回からは「開拓の思い出」巻末に掲載されている関係者の思い出話です。今回はいまままで掲載した志村卓爾さんのお兄さんの志村孝純さんです。

「開拓の思い出」 十五、思い出

志村 孝純

入植したのは弟と二人で皆様より半年程後れて昭和二十一年三月十五日でした。小淵沢の駅より細い道を登り田圃を過ぎ、山にかかると沢で石がごろごろして居るのが道でした。雨が降ると水が流れ川の様になります。やっと林を過ぎ明るい所へ出ました。一面雪で氷っていたので上を歩いても落ちません。寒い日でした、一時間位かかり事務所へ着きました。一寸休み組合長さんの案内で離農者が建てた丸太小屋へ落ち着きました。囲炉裏もついて二坪位で屋根も壁もカヤです。取り敢ず其の家で生活を始めました。毎日毎日の開墾で何しろ開墾割当が二軒分なので朝早くから夕方迄で休み休みでしたが夕方になると身体が痛く手の指は伸びませんでした。でも夕食の支度をしなければなりません。夜はランプと囲炉裏の火で書類などを書きました。ラジオがあっても聞く事が出来ません。疲れるので早く休みました。でも良く眠れました。この様な生活をして居る内に作物が取れる様に成り父と弟を迎へに行き四人暮らしになりました。だんだん家の中が狭くなって来たので青山泰造さんに本建築をたのみました。

突然立川の叔父と叔母が尋ねて来られ御馳走に栗餅を二升搗き六人で全部食べてしまいました。弟はもう少し食べたかった様でした。食糧不足でしたので。十二月頃家が出来上がり引越しました。六畳二間台所はオロシで屋根は杉皮で壁は竹でコマイをかき壁も塗りました。建具はなしです。色々の工夫でふさぎました。良い正月を迎える事が出来ました。寒い時だと思いましたがハツ岳の中腹へ電柱にするカラ松の丸太を皆んなで引ずったり担いだりしに行きました。今思へば大変な仕事でした。お陰様で電気がつき其の時の喜びは今でも忘れません。それからラジオ聞きながら県へ出す

書類などを書き夜も遅く迄御茶飲話をして居る様に成りました。思い出の一端を書きました。